

「特別な教育的ニーズへの対応」の授業改善

特別支援教育コース・榎木暢子

「特別な教育的ニーズへの対応」は教育実践開発コース選択科目であるが、他コースの院生も履修可能な科目である。この科目は特別支援教育コースの研究者教員苅田先生との共同開講である。

1. 授業の概要

今年度は小学校、高校、特別支援学校の教員を目指す学生並びに現職院生が履修した。授業内容を表1に示した。最終受講生数は6名であった。

2. 授業方法の工夫と授業評価

2-1 授業方法の工夫

(1) ゲストティーチャーの活用

「キャリア教育と学齢期の課題」では、例年講義と附属特別支援学校等におけるキャリア教育の紹介を行っていたが、今年度は、元小児慢性特定疾病児の成人の方に、ゲストティーチャーとして、オンラインでお話をいただいた。

(2) 「個別の指導計画」の作成

学習指導要領の改訂により、通常の学校においても、特別な教育的ニーズのある児童生徒に対して「個別の教育支援計画」並びに「個別の指導計画」を作成して、計画的に指導することが望ましいとされた。このことを受け、「個別の教育支援計画、個別の指導計画の理解」では、愛媛県教育委員会特別支援教育課が示している「個別の教育支援計画」並びに「個別の指導計画」の様式を用いて、連携校実習の実習校や前任校等の児童生徒を想定して、「個別の指導計画」を作成させた。

2-2 受講生対象のDP調査

受講生の成績に一切影響しないことを約束し、授業に対する自由な回答を保障するため、

最終課題提出後に就学支援システムからのメールにて、回答を依頼した。

受講生6名中5名が回答し、回収率83.3%、回答者の内、学部卒業院生が1名(20.0%)、現職教員院生4名(80.0%)であった。

3. 調査結果と考察

表2、3に今年度受講生のDP調査の結果を示した。また、表4にDP調査で得られたこの科目に対する感想や意見の抜粋を示した。表2、3の項目については、1:とてもそう思う、2:ある程度そう思う、3:そう思わない、4:授業の目標・内容がこのDPとは無関係であるである、であることから、1に近いほど、とてもそう思うが多いことになる。

表2から授業の目的を達成することが概ねできていると考えられるが、技能についてはやや未達成の部分がある。個別の教育支援計画や個別の指導計画作成、具体的な支援の方法についての知識は得られているが、実践への不安があると推測される。

感想等からは、多様な校種の院生がこの科目を受けることにより、特別な教育的ニーズのある児童生徒への関わり方や支援方法、校内体制などへの考え方を深めることができていると言える。また、講義によって得た知識をどのように活用するか、具体的な手立てを提示することにより、学校での実践につながることを推測される。

4. まとめ

本科目は研究者教員と実務家教員の共同開講科目であり、理論と実践を結び付けた授業展開が実現できている。一方で、技能面の向上についてはまだ改善の余地があると言える。授業方法の改善を更に検討していきたい。

表1 「特別な教育的ニーズへの対応」授業内容

問題提起、 特別な教育的ニーズとインクルーシブ教育の理念 (榎木)	学習困難への対応(4回)(苅田) ・読み書きへの支援 ・漢字書字への支援 ・算数困難への支援 ・数学困難への支援
学びにくさの理解と対応(2回)(榎木)	コミュニケーションの課題への対応(苅田)
特別な教育的ニーズに対応する授業づくり(2回) (榎木)	ソーシャルスキルの課題への対応(苅田)
個別の教育支援計画、個別の指導計画の理解(榎木)	自己理解を促す支援(榎木)
キャリア発達と学齢期の課題(榎木)	総括(榎木)

表2 DP調査の結果①

知識・理解	技能	思考・判断・表現	関心・意欲・態度
1.4	1.8	1.4	1.4

表3 DP調査の結果②

課題・進度の適切さ	明確な自己課題	自己課題に対する 改善方法の探求・実践、 目標の達成	毎時の課題への フィードバックや助言
1.0	1.2	1.6	1.6

表4 DP調査の結果：感想等(抜粋)

<ul style="list-style-type: none"> ・特支以外の人たちと、個別の指導計画や授業、支援等についていろいろな視点から話ることができた。 ・授業づくりを経ての計画作成の流れの中で、自然と意識が同じ方向を向いていったのだろうと思った。研修の在り方や設定、仕掛けにも通じるように思い、大変勉強になった。 ・いろいろな校種の方と一緒に受講することができ、自分の校種以外での内容でも考えることができ、勉強になった。 ・教育的ニーズに関して、普段の授業から意識を向けて教材研究やワークシートの作成を行う必要があると感じた。 ・体系的な講義内容で、知識だけでなく学校現場ですぐに実践できる演習などが多く含まれていた。
